

日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.8 スペイン語担当 伊東さん

通訳者の心得として、診察前（待合）での話題選びがあります。避けるべき話題として、患者さんのプライベートや宗教、政治に関する事があります。そんな時にはお天気や趣味、料理の話などをするようにしています。それでも「思いがけずにやってしまった！」ことがありました。

診察待ちをしている時に、患者さんの誕生日が近いと知ったのでつい、「お誕生日に何かお祝いをされますか？」と聞いたところ、急に険しい顔になり「誕生日は祝わない！ だいたい日本人は信仰もないのにクリスマスを祝ったり、神社や寺を参拝したりするのはどういうことだ！」と厳しく言われ、話題を変えるのに苦労しました。誕生日をお祝いしない信条もあるのだと後で知り、反省しました。

また、小学生のお子さんがある患者さんに8月も末だったので、「夏休みが終わるとお母さんはやれやれですね」と話しかけると、急に涙ながらに「子どもが学校でのいじめに苦しんでいるが学校は何もしてくれない。一緒に学校に行って話をして欲しい！」と頼まれました。医療以外の通訳業務はできないと説明しましたが、とても胸が痛みました。

多くの方が来日するようになり、医療も教育も安心して受けることができる日本の社会であって欲しいと願い、外国人の方々にも色々なご苦労があることを心に留めながら通訳に向き合っていきたいと思っている毎日です。



通訳者からのおススメ ～Vol.3～

「読書事情」



古くは渡辺淳一氏、その後は海堂尊氏の「バスタ人気」を経て今もたくさんの現役医師による小説が人気を博していますよね。通訳者たちのおススメは、やはり医療ものです。

通訳センターでもお互いに読み終わった本を貸し借りしあったり、新刊が出れば読んだ人から紹介してもらったり、と情報交換が盛んです。中山祐次郎氏の「泣くな研修医シリーズ」や知念実希氏氏の「祈りのカルテ」は、最近TVドラマにもなりました。「すばらしい人体」という話題の人体及医学入門書を勧めしてくれる人もいます。

マンガの「はたらく細胞」は、医療関係者だけではなく、全国の子どもたちの中でも大人気でアニメ化もされましたね。

読者の方から「継続は力なり、もう28号まで来ました。まさに鉄人28号！」とコメントを頂きました。とても嬉しく、また励まされました。続けることの難しさは通訳の勉強も同じです。

少し早いですが、皆さま、来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

今月のピックアップ

「海外からの依頼」

Medi-Wayでは、ビデオや電話を使って海外からの依頼にも対応しています。普段の日本国内とは逆で、ドクターが外国人、患者さんが日本人、例えば駐在員やそのご家族、また留学生や旅行者というようなケースです。

依頼が多いのは東南アジアの契約先病院です。「ハイ！○○さん！」と明るくフレンドリーな声で医療者が画面の向こうから通訳者を呼んでくれます。東南アジアなまりの英語のために聞き取りに悪戦苦闘することもあります。モデルのような出で立ちで撮影された現地医師たちの写真付き病院パンフレットを横目で見ながら、こちらニコリ笑顔で対応します。

最近では電話の三者通話を使って、日本で入院した患者さんの病状を海外にいるご家族に報告する、というような通訳もしばしばあります。まだコロナの影響で外国人の来日が難しいケースもあるため、オンラインでのこうした通訳時には海外のご家族から「ありがとう！」の声を聞かせていただけます。

コロナ禍でインバウンドの状況も変化しましたが、高度な日本の医療が海外から注目されている点は今も変わっていません。医療に関する「架け橋」としての私たち通訳者は、いつどんなシチュエーションでも役割が果たせるようトレーニングに励んでいます。

